



どうする!? タブレット端末

…アンケートに寄せられた声から

文科省の「GIGAスクール構想」に基づき、1人1台ずつ配備されたタブレット端末。機器等の整備や職員の研修が大急ぎで行われ、この4月から使用することになったものの、各学校では、さまざまな不安や混乱を招いている状況が見られます。尾北教労では、学校現場での状況と今後の課題や方向性を考え合うために、「タブレット端末アンケート」を行いました。「協力いただきありがとうございます。」「タブレット端末アンケートに寄せられた声の一部を紹介します。タブレットについてともに考え合えればと思います。尚、アンケートに寄せられた声は、尾北教労のホームページに掲載してあります。」「参照ください。」

どの程度 使用しているか

- ◎授業では「ほとんど使用していない」あるいは「1週間のうち、たまに使用する」という声が多く寄せられました。授業以外での使用については、次のような声が寄せられました。
- ◎週に1回ほど、休み時間。
- ◎休み時間にタイピングの練習。週1、2回程度。タイピングに慣れて、文字入力スピードを上げていくと、授業で活用しやすいと思う。
- ◎毎朝、登校したら全校児童が「心の天気」を入力する学校の決まりがあるのので一応余裕のある日は、やっている。
- ◎雨の日の休み時間 eライブラリー。

子どもの教育に タブレットはどうか

- ◎コロナ禍で、対面せずに学び合いをするのに有効である。また、使用頻度が上がれば、その分、子どもがスムーズに扱える。

◎これからの時代を生き抜くために必要なツールとしての使い方を学ばせていきたいです。どの場面で使うか、というより日常的な使い方を考えています。

◎子どもたちの意見を集約したり、ホワイトボードの代わりになるような学習のときには有効的な活用ができそうです。

◎子どもたちの思考を深めるために、タブレットならではの利点をいかして有効に使える利用法を考えていくことが必要。

◎ローマ字を打つ時などに差が明らか。何でもタブレットと言っわけにはいかない。個別学習で使うことがあるが、ゲーム的になってしまうのが心配。

◎基礎、基本の上に触れていくもの、体験学習や本物に触れる、地道に調べることなどが失われていくのは本末転倒。

◎小学校の教育は、学力の基礎基本である「読み・書き・計算」の力を培うことを最優先にすべきだろう。タブレットについては、「新しい道具」くらいの捉えで、「ここかくタブレットを使う」でなく、「タブレットの方が効果的だから使う」という発想で、使う機会を限定して使った方がいい。でないと、タブレットに振り回され、肝心の学習活動が進められなくなってしまう。

◎低学年の子どもが1人でタブレットを使用するのは難しい。

◎特支学級では、タブレットに依存する傾向が見られる児童が少なくないので、バランスを考えて使用する必要がある。

◎不適切なものを見てしまわないか不安。視力に対する不安もあるのでタブレットとの向き合い方の距離感を考えたい。

◎書くことが極端に少なくなるので、記憶の定着が妨げられる。調べたことで分かってしまったと児童が錯覚する恐れがある。

◎今は教員間で、扱いや指導力量の差がある。また、子どもに使わせることが目的化してしまいやすい。いろんなサポートが必要だと思っ。

◎校内の数回の研修で操作方法が覚えられないため非常に不安。実際、ついていけない職員が出てきている。その先生が決して悪いわけではない。急速に物事を進めすぎていることに問題を感じているし、現場に丸投げしていることがそもそも問題である。

指導する上で 思うことは

◎機器の不具合があると、操作方法に慣れている人にわざわざ聞かなければならないので時間ももたない。また、相手の時間も奪うので申し訳ない気持ちもある。

◎自分自身がインターネットやPadの操作に全く自信がない。

◎使い方や活用の仕方を指導する時間を生み出せません。

◎家庭によっては既に自由に使っており使いこなせてしまうが、できない子は全く分かっておらず、教師側がどれだけ説明すべきか分からなくなっ。

◎教師用のChromebookがないと、児童と同じことがいっへん。

◎タブレットに振り回されないよう、適正な範囲での使用制限をしたい。

◎ただルールを押し付けるのではなく、一緒に作っていくような姿勢が必要。キールの学習も必要。

◎回線が弱く、一斉に学習に活用できないのは非常に不便。トラブルが発生した場合に別の学習の準備をしておくかないと動かなかったときに何もできない。◎キーボードのキーを押しても反応しないトラブルがあった。ちょっとしたことでも、トラブルに対応しなくてはならなくなる。時間がかかり大変。

◎保管庫にしまわないといけないため、これが非常に困る。なぜなら、子どもたち一人一人のタブレットを保管庫から取り出したり、入れたりする時間が非常にかかるからである。

校内での研修について

◎いろいろな使い方を教えてもらえるのでありがたいが、自分が授業で使えそうだなと思えない。

◎基本から教えてほしい。研修のレベルが高すぎる。恥ずかしくていままら聞けないこともある。

◎どう使うかだけでなく、子どもにどんな力をつけるためにどう使うかまで、話し合いたい。

◎基本的に、子どもの方が順応も早く、教員集団よりも児童や生徒集団の方がいろいろな使い方を見つけてるように思う。研修は単純な機能紹介に留まらず、子どもに端末を与えることで起きる生活の変化に対応していくためのものであって欲しい。

◎それぞれが勝手に進めていく、放置状態。

どのように使わせるのか、ルールはどうすべきか、といった話し合いもない。

◎研修は、ほとんど行われていないです。◎時間確保が難しい。

◎業後の休憩時間を奪われてまで研修(伝達講習)があることに不満がある。しかも、その研修だけで習得することは難しい。伝達者は、伝達するまでに何回も操作をしてみても、ある程度熟知できる段階になっているわけだが、それをどの教員にも求めるのは難しい。

◎オンラインでの研修のためとして、先生全員が会員登録させられ、個人情報を入力しなければならぬことに違和感を覚えた。

ICT支援員の配置について

◎常駐してほしい。

◎各校1名配置してほしい。情報担当が忙しすぎる。結局担任任せになっている。

◎トラブルや不具合に対処できる専任の職員が各校に必要。

◎指導するための支援員が欲しい。

◎週1回来てほしいです。

◎現場に丸投げしているので、常勤のICT支援員は必要。ICT支援員ならすぐに聞けるし、操作方法やトラブルもすぐに解決してくれるので、非常に助かる。

◎端末の保守や設定、基本的な操作についての児童への指導など、ICT支援員がないため、教員の負担になっている。

◎ICT支援員がいていただけたら大変ありがたいと思う。

◎家庭のICT使用状況により、児童の技能格差が大きいので、各校に常駐するICT支援員を配置してほしい。

家庭での使用について

◎課題や家庭学習の指示や用意、学習状況チェックに関して、教員の負担が大幅に削減出来る。

◎家庭でも慣れてほしい。

◎またいつ休校になるかわからないのでまあまあ必要。

◎しっかりとルールを決め、家庭でも協力をお願いしていく必要があると思う。

◎家庭まかせになってしまいそう。タブレットがゲーム機として使われても構わない。

◎「スマホ脳」という話題も出ています。とくに小学生が長時間、触れることは逆効果になるのではないかと。

◎本来の学びは、子どもどうしの集団での学び合いでこそ、意欲がわき、豊かな学びにつながると思う。家庭での使用は、個別学習なので、不登校や休校中など、持ち帰る機会を限定した方がいい。でないとYouTubeやゲーム漬けになる可能性が大きく保護者も困る。

◎家庭での学習を強要されるようで嫌だ。プライベートな時間なので、個々の家庭の経済力に応じて、好きなように学習するべき。どこまで国に管理されなければいけないのか？疑問である。

◎学習に必要ななら仕方ないが、破損したり、目的以外のこと使用しないか心配。個人情報流出しないか不安。

◎家庭での使い方や管理など、保護者の新たな負担となる。

◎故障した時の責任問題や家で使用したくない家庭への配慮が必要。

GIGAスクール・タブレット・その他

◎GIGAスクール構想の、「ICTを活用した個別最適化された学び」は、一人一人がばらばらにされてしまう恐れがあるので、「学びとは何か？」を常に問いながらICTの活用を検討していく必要があると思う。

◎GIGAスクール構想は賛成だが、個人情報を守られるように配慮してほしい！段階的に進めてほしいという要望はあっても、授業のコマ数は同じで、授業の取り組む量や行事の精選がされていない状況でやってほしいというのは難しい。

◎教師個人のスキルアップが必要となるので多忙化が進む。

◎管理職の腰が重く、ほとんど活用が進んでいません。管理職の方々にも実際に手に取って活用をしていただきたいです。

◎小学生は、人と直に触れ合いながら成長していく時期であり、タブレットの使用によって人と直に触れ合うコミュニケーションの時間を奪うなどデメリットも多い。高学年ぐらいからタブレットを経験しながら潜む危険についても知り、学んでほしい。低中学年は、家庭でのタブレットは必要ない。

◎性急に進めるのではなく、目の前の子どもにとってどういう指導が必要か、どういった使い方だといのかを職場で十分検討すべきです。進めるのは、文科省でも教育委員会でもなく、現場の私たち教員です。